

校長通信

「三野津」 NO10



令和6年1月17日(水)



▲体育館の倉庫にある備蓄物資(水・食料) ▲正門前の標高表示

今日は1月17日です。1995(平成7)年に阪神・淡路大震災が起きた日で、「防災とボランティアの日」です。災害への備えを充実強化させ、ボランティア活動の認識を深める目的で制定されました。あれから、約30年。今年の元旦に能登半島地震が起きました。200名を超える人が亡くなり、電気ガス水道などのライフラインが止まり、今も2万人以上が避難生活をしています。交通網が寸断され、支援の手が十分届かず、孤立している住民も多くいます。

そこで、このあたりで南海地震などの災害が起きた時のことを考えました。三野津中学校は標高2.1mのところであり、最大3mの津波が予想されています。だから、毎年、1年生は避難訓練をかねて葛山まで歩いています。さらに、三野津中学校体育館は運動場より1mほど高く作っていて、避難所に指定されています。倉庫には水や食料が備蓄されています。この機会に、避難生活をするようになった時に何が使えるか、チェックしてみ



ました。運動場に井戸があり水が確保できます。しかし、現状では電動のポンプなので、電気が止まるとくみ上げられません。同じように、寒い時のストーブや、暑い時の扇風機も、電気が必要なものはそこが弱点です。

▲運動場の井戸とポンプ

▲煮炊き用の大釜



▲扇風機(電気が必要)

▲ストーブ(灯油と電気が必要)

▲ストーブ(灯油だけ)

ライフラインが止まった時にすぐ使えるようなものは、灯油だけで暖まるストーブと、プロパンガスや薪で煮炊きができる大釜でした。灯油、ガソリンなどの備蓄や発電機の必要性を強く感じました。みなさんも、災害に限らず、備え=事前の準備が大切です。それぞれで考えてみましょう。